１．ホスピス・ボランティア養成研修講座

Ⅰ　背景

近年、がん医療は飛躍的進歩を遂げ、進行がんでも年々生存率が向上している。

この結果、「最期まで人間らしくありたい」と、終末期を自宅で過ごすことを希望する方が年々増加していくことが予想される。しかし、欧米に比べて専門的人材の育成、また在宅医療の制度設計は不十分と言わざるを得ない。

特に医療ボランティアには専門性が求められるため、ボランティア活動には医療における専門的知識も一定程度要求される。
当財団は体系的なホスピス・ボランティア教育を行うため平成28年3月に故谷田憲俊氏を中心に当財団内に多職種の有識者11名からなる「ホスピス・ボランティア研修プロジェクト」を立ち上げ、2016年10月より、座学と実地研修を効果的に組み合わせ、ホスピス・ボランティア養成研修講座を開講した。

Kobe IMA
公益財団法人
神戸国際医療交流財団
Foundation for Kobe International Medical Alliance

1．ホスピス・ボランティア養成研修講座

II　第7期研修プログラム

◆講義全7回＋実地研修で構成
◆講師は、日本ホスピス在宅ケア研究会の理事の関本雅子氏を筆頭に、阪神間で実際にホスピス病棟を有する医療関係者や、既にホスピス・ボランティアとして活躍されている方が講義を担当している
◆実地研修は、阪神間のホスピス病棟や訪問看護等にて実際にホスピス・ボランティアとして実習する
◆修了証：受講者を「認定ホスピス・ボランティア」として認定証を交付する

III　受講対象者

ホスピス・ボランティア活動に意欲のある方（経験・未経験は問わない）

IV　実施期間

2026年1月～2月(予定)

▲第6期養成研修のチラシ

▲ホスピス・ボランティア養成研修講座の様子

2．AKATSUKIプロジェクト

■事業目的：
東京科学大学が実施する3つの人材育成プログラムのコンテンツを活用しながら、「医療DXイノベーション人材育成プログラム」を構成し、人材の発掘、育成、アイデアの具現化支援に取り組むとともに、自治体、経済団体、公益法人、団体と連携して、2024年度以降のプログラム継続体制を構築する。

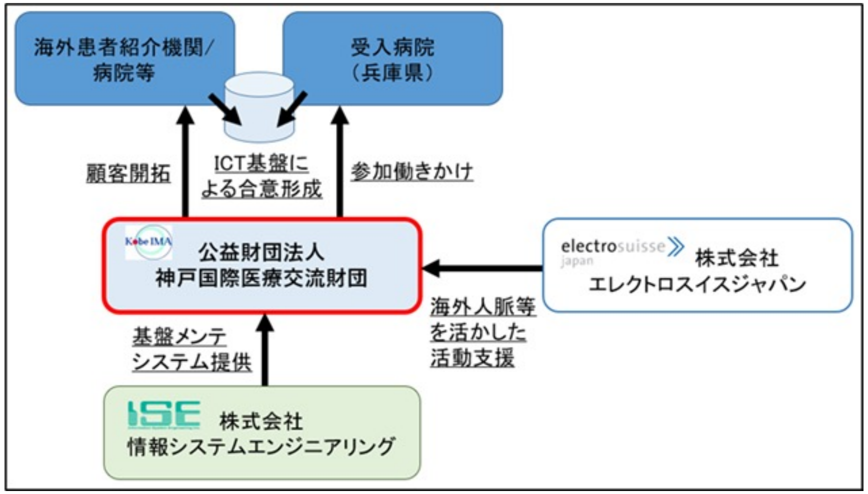
対象：学部生、大学院生、医師等医療専門職、企業人材（40歳未満の人材を対象）
選抜方法：医療・創薬等のドメイン知識、データサイエンスやデジタル技術、アイデア等の内容をもとに選考を実施。

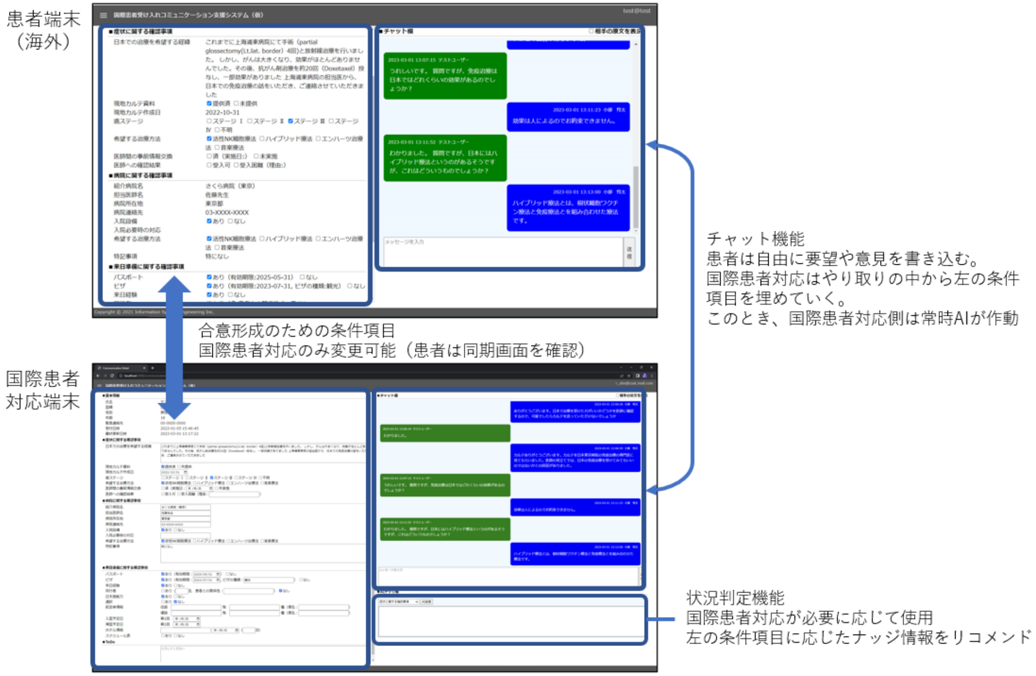
概要：ビジネス開発に必要なビジネスプランニングの実習、受講者個人やチームに対して個別に実施するメンタリングをプログラムの中心に据えて、受講者が必要に応じてデータサイエンスやデジタルヘルスの知識やスキルを学べる体制を構築する。

対象地域：医療DXイノベーション人材育成プログラムの地域への波及効果・相乗効果を得るために、首都圏に加えて製薬企業等が集積する大阪府、医療産業の集積地である兵庫県・神戸市を主な対象地域とする。

Kobe IMA
公益財団法人
神戸国際医療交流財団
Foundation for Kobe International Medical Alliance

1．メディカル・ヘルスケアツーリズム事業





兵庫県の助成を受け、患者の来日受け入れに向けたコミュニーション支援にフォーカスした新たなシステムを開発した。
システムを試験導入して、必要な学習データおよび機能実装の改善を行なっていく。
海外からの受入れ患者として、日本の先進医療での治療を希望される方、日本が誇る人間ドックや各種検査を希望する方を想定している。
海外患者の受入れを進めている兵庫県内の病院を受け入れ医療機関とし、本システムの導入を進めていき、ビジネスモデルとしての「兵庫モデル」（海外からの治療希望患者と、本システム導入をした兵庫県内の医療機関で、本システムを活用した合意形成をしたうえで、患者を受入れる）を確立させる。

2．日韓医療・介護機器ビジネスマッチング支援事業【日韓の医療関連機器産業の活性化が目的】

当財団は韓国有数の医療機器産業クラスターを形成しているウォンジュ市のWMITと2016年から交流し、神戸医療産業都市進出企業も含めた日韓医療・介護機器ビジネスマッチング支援事業を実施している。
WMITが毎年開催している GMESの出展企業とのマッチングにより、日本市場への進出を支援している。

2．日韓医療・介護機器ビジネスマッチング支援事業(例)

今年度は韓国で褥瘡予防効果のある医療機器として人かを受けた車椅子クッションNEOXに関して、兵庫県内の医療機関や介護施設においてテスト販売を行い、利用者への効果を検証する。

会社名：Neoable Corp.

製品名：NeoX(床ずれ防止クッション)

使用目的：
マットレスの空気室等を交互に膨らませて身体の圧力分布の位置を変えることにより褥瘡等を防止するために使用するマットレス、座布団等の器具

使用対象：
病院及び介護施設、家庭用で動きが不自由な重症患者、障碍者など褥瘡防止のための30個の格子型空気室の組み合わせで構成される褥瘡予防座布団を、3つの空気区域(空気室)に分けこの空気区域がプログラムされた順序によって膨らまれて尻部位の圧力分布の位置を変え、片方の空気区域に5分以上圧力が集中すれば自動的に空気を排出/注入して使用者の褥瘡を防止する。

neoable
Create new value

３．ハワイ大学研究支援プロジェクト

■概要：
弊財団とWoman Support Center of Hawaii及びホノルル財団とでハワイ大学に共同寄付講座を立ち上げ、
産婦人科領域におけるハワイ大学での研究に寄付することで、日本とハワイさらにはアジア、世界の医療に貢献する。

■日程：2019年12月末より開始

４．ベトナム医療支援プロジェクト

■実施内容：
昨年に引き続き、神戸大学医学部附属病院小児外科と連携し、ベトナムの国立ハノイ小児病院との交流を行う。

本年度は対象疾患患者数の多いベトナム国立小児病院(Hien副院長)を拠点に、メディカロイド社およびシスメックス社と hinotoriの小児外科領域の機器開発を行う。

5．ホスピスタウン建築研修プロジェクト

■実施内容：

神戸東ロータリークラブの支援を得て、ホスピスの先進国であるハワイの施設を視察し、その設立方法、施設の設計、建築について、意見交換する。ホスピスタウンとしての都市設計から建築概念や方法の日米比較をし、日本の今後のホスピス設計建築に役立てる。

1．革新的医療機器の統合型研究開発・創造拠点事業　― MeDIP ―

■MeDIPの運営

Ⅰ）ウェット対応ではあるが、ドライラボとしての利用も多く受け入れていく

Ⅱ）MeDIPの新人員の確保・育成も視野に人材戦略を検討する

Ⅲ）MeDIP見学希望の問い合わせについては、月に数回見学日を決め、有料にする

Ⅳ）学会などのイベントで広報したり、アカデミアや企業への利用希望アンケートを郵送することで認知を広める営業を行う

公益財団法人
神戸国際医療交流財団
Foundation for Kobe International Medical Alliance

2． 医療・介護機器開発マッチング支援事業

■事業スキーム

開発アイディアを医療従事者にヒヤリングし、医療機器開発コーディネーターと財団とで市場分析等のマーケティング調査を行う。事業化可能な案件については、賛助企業に対して、医療機器開発マッチング交流会において情報提供を行う。その後、開発意欲のある企業に対して、当案件の事業化までをサポートする。

ものづくり企業
異業種メーカー
医療機器メーカー

位置づけ

開発・製造・販売を行う主体

▷

神戸国際医療交流財団

支援内容

- 市場調査
- 事業戦略策定
- 資金調達
- 試作／評価
- 臨床開発／薬事
- 販路開拓
- トレーニング
- 専門アドバイザー

位置づけ

医療機器開発／事業化における窓口
医療機器開発促進のトータルサポート

◁

医療従事者
研究者
神戸大学小児外科
medicaroid

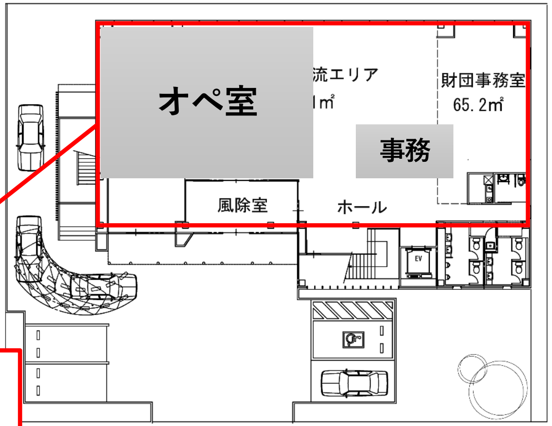
位置づけ

開発アイディアの提案

4 テナント事業

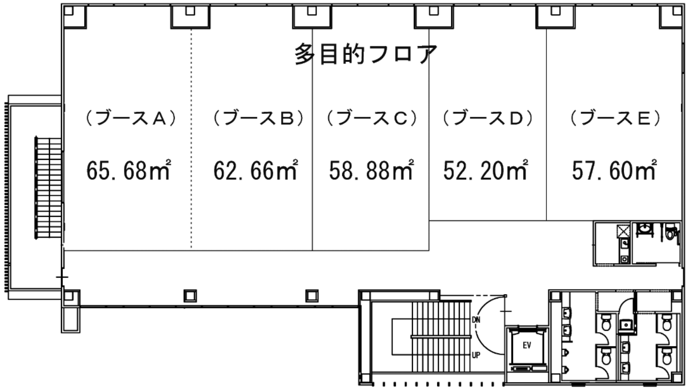
■IMPビル

1 F 研究開発フロア

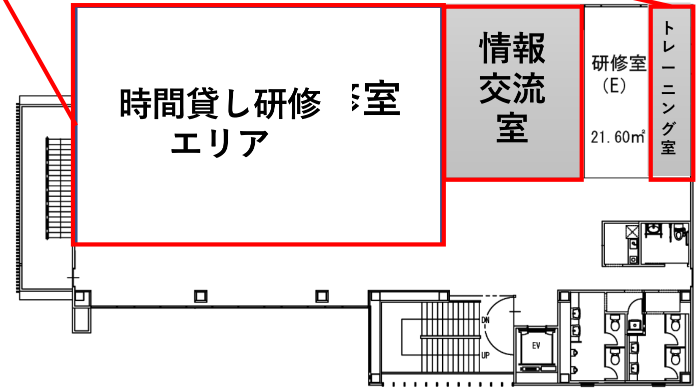


革新的医療機器の統合型
研究開発・創造拠点

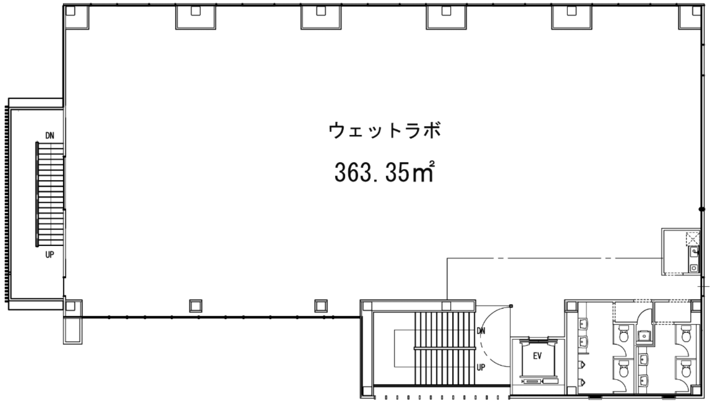
2 F テナントフロア



3 F 研修室フロア



4 F ウェットラボ



（2025年2月18日現在）

Kobe IMA
公益財団法人
神戸国際医療交流財団
Foundation for Kobe International Medical Alliance

1．学会・研究会との共同研究

国際集学的治療学会の研究支援

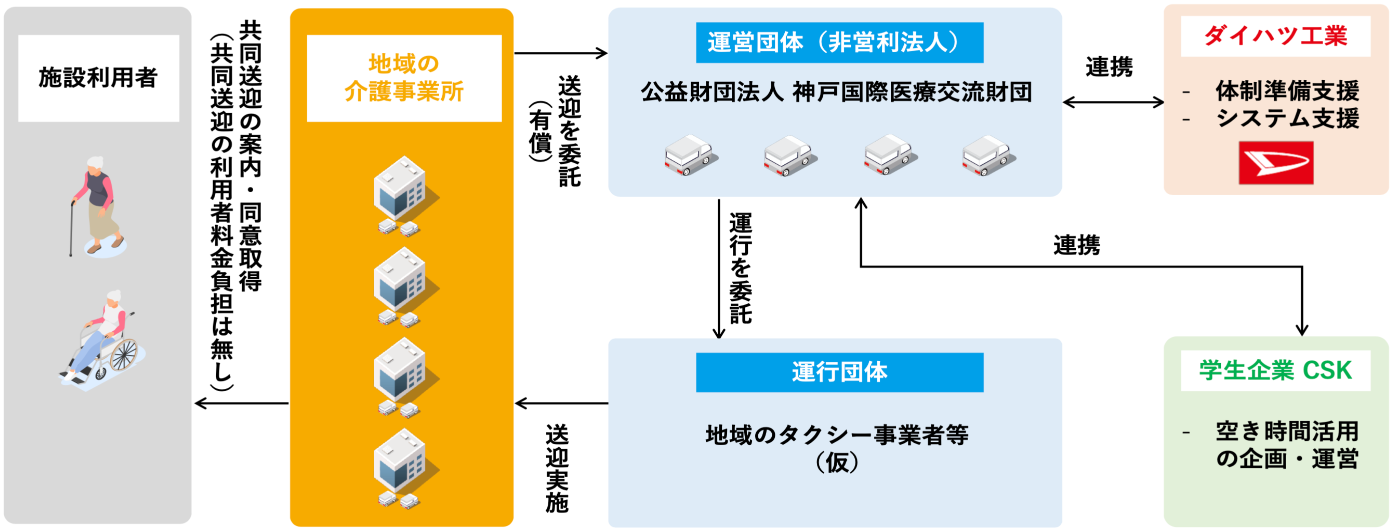
2. 介護テクノロジーの実装支援

「ゴイッショプロジェクト」は、地域の福祉介護を支援するための新しいモビリティサービスである。本プロジェクトは、通所介護施設の送迎業務を地域単位で効率化し、共同送迎サービスを提供することを目的とする。

各介護施設が個別に行っている送迎業務を外部の運営団体に集約し、地域全体で運行することで、業務負担の軽減や人材不足の解消を図る。さらに、送迎の空き時間を活用して、地域の移動支援や生活支援サービスを提供することも検討されている。
このプロジェクトにより、地域の高齢者の移動や暮らしを支援し、持続可能な地域社会の実現を目指す。

ゴイッショ神戸市モデル（仮）のイメージ　Light you up　DAIHATSU

- 神戸市で神戸国際医療交流財団を主体とした共同送迎サービスの実現性について検証を行います
- 車両の調達、ドライバー（運行団体）の確保方法については現時点で未定



Kobe IMA
公益財団法人
神戸国際医療交流財団
Foundation for Kobe International Medical Alliance

Asahi
アサヒ飲料

3. 寄付型自動販売機の普及

安定的な寄付金収入を確保するため、2019年度後半より弊財団オリジナルの寄付型自動販売機の普及活動をアサヒ飲料とともに共同で開始した。この自動販売機で消費者が飲料を購入した場合、弊財団に飲料売上の1%～5%が寄付されるという仕組みである。また、飲料のラインナップは弊財団が医療財団ということで、健康志向のラインナップにしている。

飲料の売上金
→ アサヒ飲料 75%
→ 設置企業 20~24%
→ KIMA 1~5%

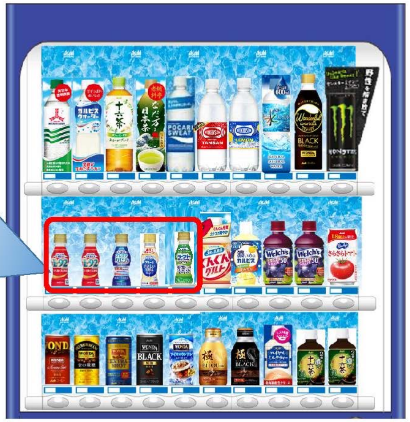
※自販機設置台・電気代・飲料補充・自販機管理等については、すべてアサヒ飲料が行い、この費用もすべて含む。

健康

カルピス由来の乳酸菌科学
☆エビデンスに基づいた機能性飲料

「守る働く乳酸機」
・日々の体調をキープしたい方に

「届く強さの乳酸菌」(機能性表示食品)
・腸内環境の改善に役立つ
・心理的なストレスを和らげ、睡眠の質を高めるのに役立つ

「アミール」やさしい発酵乳仕立て(機能性表示食品)
・血圧が高めの方の血圧を低下させる機能

「はたらくアタマに」ラクトノナデカペプチドドリンク
・認知機能の一つである注意力の維持と、計算作業の効率維持に役立つ